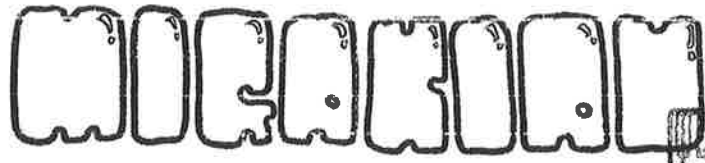


三加和
中学校
学校たより



20期目

3月1日(金)

大人になっていく 君たちへ……

（いよいよ3年生の皆さんは、来週で卒業ですね。おめでとうござります。皆さんと出会う、この2年間で、大人になるうちに自分が失ってしまった、純粋な心を振り返ることができました。皆さんの純粋さのおかげ

です。本当に感謝しています。そんな皆さんに、以前道德の授業に使われていた話を紹介します。本によて話が少し違うのですが、話をもとに『こんな大人に……』という仮-ジが伝わると、思っています。死を待つだけの重けなり重症患者の病室の話です。（実話をもとにした話です）

その病室にも、死の宣告をうけた7名の患者が入っておりました。ジミー・カフスは、その一番窓際に寝ていました。自分で動くことができない患者たちの中で、ジミーだけが唯一、窓の外を見ることができました。死と隣りあわせの患者は、みんな心かすさんでいました。その患者たちに、ジミーは窓から見える光景を語り伝えていました。『おーい、みんな！今日は子どもたちが遠足だよ。黄色いカバンをさげている子がいるな。いや、ピンクの帽子をかぶっている子もいるよ。かわいいな。3番目と4番目の子が手を繋いで歩いている。きと仲良しな人だろうな。あ、空には黄色い虫蝶々が飛んでいるよ。』そんな話を聞きながら、仕切られたカーテンと天井しか見られない他の患者たちは心を和ませるのです。そんなある日の朝、ジミーの声がしませんでした。昨夜、亡くなったのです。すると、入口から2番目のベッドに寝ていたトムという男が、『俺を、ジミーが寝ていた窓際にきてくれ』と頼むのです。しかし看護師さんたちは、顔をくもせて、なかなか言うことを聞いてくれません。しかし、あまりにトムがしつこく言うので看護師さんたちはトムを窓際に移しました。喜んだトムは『俺はジミーみたいに、外の景色をみんなに話して聞かせるなんてしないぞ。』

自分だけで楽しむんだ。』そう思ってカーテンをどかし、窓の外を見たのでした。ところが、窓から見たのは、灰色の古ぼけた壁だけだったのです。……その瞬間、トムは、ジミーの思いがすべてわかったのです。『ジミーは壁しか見えないのに、自分たちのすさんだ心を励ますために、その壁の向こうに広がっているであろう、素晴らしい世界をああやて語り聞かせてくれていたんだ……。それに引きかえ、自分ときたら自分だけ楽しもうなんて、何てあさましい心の持ち主なんだらう。何という恥ずかしい自分であらうか。』心からざんげしたトムは、ジミーに負けないくらい素敵な思いやりの心をもて語り聞かせをするようになったそうです。『おーい、みんな！今日は花屋さんか通るぜ。車の中はバラの花でいっぱいだよ。前のほうは、あれはパンジーの花だな。あのとりの黄色いバラ。甘い香りがするだろうな。』

……という話です。ジミーは、何か見返りを期待して、みんなに、こんなことを死ぬまで続けたのでしょうか？ ちがいますよね。ジミーは、**みんなに喜んでもらうことそのもの、それが嬉しかったんです！！**

そして、このジミーがやったことは、以前紹介したディズニーランドのスタッフと同じように、みんなの人生を瞬間にして変えています。トムはそれまで心かすさんでいました。きと辛い人生だった人でしょう。でも、ジミーの『人を喜ばせる心』のおかげで、みんなの人生は、最後の最後に大きく変わりました。人生の最期に『人の心』を取り戻させてあげたんです。すごいですよね。これから先、皆さんは、必ず、『自分に向けること、何だろう』『やりたいことは？』『自分にとっての仕事？』といったことを考えます。そんな時のために、人を喜ばせることを、たくさんやってみてください。そうすると、自分のやりがいのあること、生きがいと存するものと出会えます。夕べされた、と思ってやってみましょ！ 私からの皆さんへの願い……

人を喜ばせることを、心から喜べる人になってほしい。

見返りなんて期待せず、ちゃんと自分が損しても相手がそれで喜んでくれるなら……
そう思えるような人になってほしいです。おまじ、私の勝手な思いです。

3年間のおかげ、2年間、三加和にみんなの思い出ができました。

返信用 QRコード

